立教大学ＥＳＤ研究センター・第４回ＥＳＤ研究会

「国際協力と開発教育：援助の近未来を探る」

2009 年 2 月 17 日

立教大学太刀川記念館
田中治彦（htanaka@rikkyo.ne.jp）

１．本書までのいきさつ

前著『南北問題と開発教育』（亜紀書房、1994 年）の内容

「貧困の悪循環」の行き詰まり

チェンマイ大学での研究・地元ＮＧＯとの交流

ワークショップ『「援助」する前に考えよう』の製作

２．前半（１～５章）のテーマ

開発プロジェクトの変遷

慈善型・技術移転型・参加型

北タイのＮＧＯとシャプラニール

「参加のはしご」

ＰＲＡ・ＰＬＡという手法

３．後半（６～９章）のテーマ

開発教育の歴史

参加型学習の系譜への位置づけ

「学習」でつなぐ日本の地域とアジアの地域

北タイでの試み

４．本書の意義とくふう

「南」は国際協力、「北」は開発教育という二分法からの発展

「参加型学習」による協力と交流

「アイ子」という存在－過去の自分を今の自分が批判するアンビバレンス

５．今後の抱負

居場所論と地元学と開発教育をつなげたい

「グローバリゼーションの寒風に立ちすくむ若者が、他者とつながり世界とつながりながら自分を取り戻す」ような教材